

## 統合国際深海掘削計画 (IODP) (IIS-PPG) 会議報告書

提出年月日：平成 18 年 7 月 24 日

(ふりがな) やまだ やすひろ つじ よしひろ

氏名：山田 泰広 ・ 辻 喜弘

所属 (職名)：京都大学工学研究科助教授・(独) 石油天然ガス・金属鉱物資源機構地質探査研究  
チームリーダー

会議名	第 1 回 IIS-PPG 会議
会議期間	平成 18 年 7 月 7 日 ~ 平成 18 年 7 月 8 日
用務地 (国・都市)	オランダ、ハーグ
<b>目的</b> ハーグのシェル本社で開催された第 1 回 IIS-PPG 会議にメンバーとして出席し、IODP に対しての産業界の貢献の方法に関連する事項に関して議論を行った。	
<b>会議内容及び報告事項</b> 会議は Shell 本社で開催された。 日本からは、パネル委員である、山田と辻の両名の他、IODP-MI の江口暢久氏が出席された。その他の出席者は次のとおり。 <b>IIS-PPG</b> Richard Davies                      Durham Univ. Harry Doust (ホスト)                Vrie Univ. Didier-Hubert Drapeau                TOTAL Andrew Pepper                        Amerada Hess David Roberts                         Rockall Geosciences Ralph Stephen                         Woods Hole Oceanographic Institution  その他 Manik Talawani                        IODP-MI Tim Byrne (SPC)                        Connecticut Univ. Raymond Schorno                       Netherlands Organization for scientific Research R.S.A. Smith                            Shell International Exploration and Production B.V.  会議内容は以下のとおり。  <b>IODP の活動概要 : Eguchi</b>  <b>SPC から IIS-PPG への報告 : Byrne</b> ・これまで提出されたプロポーザルの評価の現状についての報告  <b>IIS-PPG の作業概要 : Doust</b> ・どうすれば産業界が IODP に対して興味を示すかについて、各社の技術担当副社長クラスの人たちが参加する会を持つべき、あるいは operational review に産業界から参加すべきであるとの意見が示された。さらに、Woodside が「ちきゅう」を 4 ヶ月間使うこと、メキシコ湾では産業界からの参加の航海があることも紹介された。 ・問題点として、産業界の興味は石油システムと技術のテストであり、しかも、短期 (1-4 年) での結果が求められるのに対し、IODP は、10 年近い期間がかかってしまうこと、守秘義務の観点から新しい考え方を他の会社に知られたくないので IODP の使い方も難しいこと、これまで、産業界の人間は、IODP の結果を 90%は使っていないことなどの意見が出された。	

### 英国での IODP に対しての産業界との意見交換状況 : Davies

- ・英国では、Industry Liaison Panel (ILP) をつくり、産業界の意見を聞く機会を作っている。3-4 か月に一度、約 12 人のメンバーで過去 2 年に 6 回の会議をもった。プロポーザルを作り、技術移転、産業界での IODP のあり方について検討している。
- ・また、今年 6 月 27 日にワークショップを開催し、米国、ヨーロッパから産業界、地質調査所、英国 DTI、大学など 50 名の参加により、リフト縁辺域、古気候と根源岩の 2 テーマについて議論した。
- ・リフト縁辺域については 9 月にスイスで Continental Break-up and Sedimentary Basin Formation Workshop として議論する予定がある。
- ・英国では十分な予算、review の process、3 次元の解釈技術が無いことが困難さの原因となっている。

### 仏国での TOTAL と IODP のワークショップの状況 : Drapeau

- ・仏国では今年 3 月 23 日に 30 名弱の参加により IODP フランスと TOTAL のワークショップを開催した。
- ・課題として、非活動的縁辺域の distal part、北極域、地滑り、生物環境とエコシステム
- ・IODP の要求は、アカデミーと産業界の間での win-win の関係構築、利用可能な 3D・2D の地震探査記録へのアクセス、技術的専門知識、アカデミー（修士、博士）への資金提供
- ・可能性のあるプロポーザルとして、海洋地殻と大陸地殻の協会での掘削、高温高压域での掘削、地中海での大深度掘削、コンゴ川の大水深扇状地での掘削（気候変動とタービダイトシステムの関係）がある。

### IODP 概要 : Talawani

#### ECORD 概要 : Schorno

- ・ECORD は、IODP に対してヨーロッパが一体として貢献するために 2002 年に設立され、17 国からなる。
- ・英、仏、独の 3 国は、国のプログラムや産業界との連携がしっかりと構築されているが、他の国々はまだ産業界との関係がうまくできていない。

### 日本での Industry の IODP への関わり : Yamada

- ・産業界は「ちきゅう」の運行を含む CDEX の活動やいくつかの国際パネル・国内委員会に対して人的貢献をしている。
- ・石油技術協会において IODP のプログラムに関連する発表が行われている。
- ・日本の産業界からの ODP への乗船は 1980 年代の前半に限られている。
- ・これまでは ILP としての産業界と IODP の間の調整が十分にされてこなかったが、今後は英国のような ILP の日本版について考えるほうが良いかも知れない。
- ・地熱での掘削技術、フラクチャー検知のための AE 技術、活断層掘削の経験などを IODP の掘削に使うことが考えられる。
- ・日本の問題として産業界には研究者の数が限られており IODP の状況をフォローしている余裕が無いことがあげられる。

### 全体討論

- ・会議のまとめとして産業界に関連したプロポーザルの準備の促進させるため次の 3 つが合意された。
- Consensus 1: IIS-PPG は national funding agencies に対して、船上作業に参加する中小企業の技術者の人件費を何らかの方法で支弁することを望む。
- Consensus 2: Website を通じて IODP データベースからデータを読み出すことに問題があるため、改善を望む。
- Consensus 3: IIS-PPG は次のテーマについてのミッションを各 2-3 ページの白書として準備する。i) リフト縁辺域、ii) 中生代の古海洋学、iii) 後背地から堆積の場までの移動プロセス、iv) 科学的価値の高い層序試錐、v) 浅部圧密と流体移動。i) については Continental Break-up and Sedimentary Basin Formation Workshop を考えて 9 月 1 日までに、他のものについては 9 月 30 日までに準備する。

次回の会議は2006年12月に米国ヒューストンで開催されることとなった。ホストはAndrew Pepper (Amerada Hess)。

事務局又は J-DESC へのご要望・コメント等

IIS-PPG の会議は初めて開催されたものではあるが、このパネルそのものは ILP を引き継ぐものである。参加した両名がともに新規の委員であったため、事前に数名の前 ILP メンバーにも会の様子などを尋ねてはいたが、十分な情報を得ることができておらず、会議の雰囲気などを十分に把握できないままの参加となった。両名の認識が不足していたことも事実で反省点ではあるが、これまでの ILP の議事録、特に最終回での合意事項などを事前に提示いただいていたと考える。